

「1人1票ではなく差をつける」

1人1票ではなく、人ごとに票数を変えるという事です。投票する人はいろんな人がいます。もちろん、今は1人1票で、人ごとに格差はありません。しかし、私はこれはやや合理的ではないと思います。これは恐らく憲法上も平等の精神から変えようがないのだと思います。よって、今回の議論は、現実性に乏しい議論で、本当に私が考える理想論です。異論も多いと思いますが、以前から思っていたことなので、皆さんから意見をもらえれば選挙の議論が深まると思います。

まず、年齢です。これから余命が長い人と短い人とでは、政治から受ける影響は異なるのではないのでしょうか。若い人ほど、トータルでより影響を受ける量が多いので、票に重きを置く。

次に、税金です。政治は、国民から税金を取って、国民に返すことです。普通、会社でも、株数により採決を取ります。税金を払っている人ほど、税金の使い方に意見を言う権利があるのではないのでしょうか。つまり票の重きを置く。

さらに、過去に投票したか否かです。政治的に、より考えている問題意識のある人に重きを置くべきだと思うのですが、これは定量的には定義が難しい。そこで、過去の投票実績により判断する。過去に投票した人ほど票の重きを置く。

以上より、全く素案で異論も多くあると思いますが、バツサリと票の計算式を示します。

$$\{(\text{平均年齢} / \text{年齢}) + (\text{払っている税金} / \text{平均税金}) +$$

$$(\text{投票の有無}(1 \text{ or } 0) / \text{平均投票率})\} \text{の総和} / \text{投票機回数}$$

$$\div 3$$

(3項目については、最初の選挙の人は、昨年の18歳の人の年間平均投票率とする。)

ちょっと、分かりづらいので例を示します。22歳の男(平均年齢45歳)、年間38万円の納税(平均納税68万円)、今まで選挙が2回会って、初回は投票しなかったが(平均投票率0.65)、2回目は投票した(平均投票率0.75)とすると、

この人の票 = $\{45/22 + 38/68 + (0/0.65 + 1/0.75)/2\} \div 3 = 1.09$ 票
となります。

以上のように、年齢が若いほど、税金を払っているほど、過去に選挙で投票した人ほど、票の価値が上がるという方式を提案します。(今回は沢山の異論があるのを覚悟で書きました。)